

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	福井県民生活協同組合	代表者	竹生 正人	法人・事業所の特徴 当法人の福祉理念「あなたらしさいつまでも」を念頭に利用者の過去の生活歴や嗜好などのアセスメントを活かした活動提供、及び、自立支援に力を入れています。 併設の認知症対応デイサービスとグループホーム合同で、外出行事・趣味の会活動を通して交流しており、ニーズに合わせて、「デイサービス→小規模多機能→グループホーム」と移行がしやすい環境です。また、地域とのつながりにおいては、年1回の感謝祭や、毎月のきらめきサロンなど以外にも日常的に地域住民が気軽に施設に足を運んでおられます。職員や利用者との馴染みの関係作りができています。
事業所名	県民せいきょう 小規模多機能ホーム 岡保きらめきハウス	管理者	洲崎 美智	

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援C	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	3人	人	人	1人	人	3人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 本人のニーズとニードの違いを見極め、家族のニードも大切にしながら、本人のニーズを考えたアセスメントを強化していき、職員全員で実施していくケアの統一ができるよう、情報の共有、ケアの進捗情報の見える化により利用者のニーズを叶える事ができるチーム作りをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ご家族だけの意見による目標、プラン内容ではなく、ご本人の想いを知り、何がしたいか、そのためには何が必要なのかを一緒に考えていくよう努めた。しかし全員の想いを知るには至っていない。ミーティング等は定期的に行う事が出来るようになってきたが、情報の共有や、ケア統一はまだ不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ミーティングは定期的に行われているが、シフト勤務であり、全体の情報共有はなかなか難しいと思われる。 連絡したつもり、伝えたつもりが苦情、事故に繋がることもあるので、確実に伝えることができるよう、内容を端的に要約する訓練が必要である。 本人や家族のニーズに沿ったプランとなっている点が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員が利用者お一人お一人と対話する中で、ご本人の想いを知り、それを叶えるためには何が必要かを、ご本人、ご家族、スタッフ皆で一緒に考えたプラン内容にしていく。 情報の共有、ケアの進捗状況の見える化し、定期的なカンファレンスを行う事で利用者のニーズを叶える事ができるチーム作りをしていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> たくさんの地域住民が、気軽に入浴できるよう、趣味の会やサロンの案内方法の工夫をしていく。 事務所に職員が不在に極力ならないシフト管理と、不在時でも来客者が困らない案内を実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 趣味の会では「麻雀」や「将棋」の会では、地域の方が気軽に来られ、次の約束を会員同士で打ち合わされるようなこともみられるようになりました。しかし、まだまだ一部の方の参加に留まっている。 事務所は不在のことが多くあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方との交流が日常的に行われている。ブログでも発信されていて、とても良い。 清潔感・季節感があり、玄関先のプランターには花がきれいに咲き管理されている。 事務所は依然として不在のことが多くあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流スペースが開設されるにあたり、多世代の方が日常的に気軽に立ち寄ることが出来る事業所となるような環境作りをしていく。 事務所に職員が不在にならないシフト管理と、不在時でも来客者が困らない案内を実施していく。

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険を理解できる講座を開催し、気軽に相談できる関係性を築いていく。 ・地域住民との信頼関係の構築、輪が更に広がっていきけるよう、畑作業、奉仕活動、イベント等に積極的に参加していく。 ・ミーティングの中で情報を共有し、同じ意識のもとで携わっていきけるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会型デイホームを隔月ごとに担当し、小学校での「認知症サポーター講座」等、今後継続する予定である。 ・地域の行事、奉仕活動等には利用者、スタッフ共に参加した。 ・地域のこども園との交流が始まり、日常的にお手伝いに出かけるようになった。(ほころび直し、掃除、洗濯等) ・日々のミーティングや申し送りノートにて情報の共有化はされているが、意識やケアの統一は不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に向けて積極的に参加されており、地域としても嬉しく思っています。 ・ご利用者の方との交流もあり、町内の一員として活動されています。 ・スタッフから地域の方への挨拶があり気持ちよいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流スペースが開設されるにあたり、多世代の方が日常的に気軽に立ち寄ることが出来る事業所となるような環境作りをしています。 ・事業所に来ていただくだけではなく、事業所からも積極的に地域に出向き、自然で日常的な関わりを目指していきます。
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしをささえる取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が「〇〇に行きたい」「〇〇したい」という思いを普段の会話から聞き取りし、それを具体化し実現していく。 ・利用者が住んでいる地域との連携ができるよう体制の形成に努める。 ・事業所周辺の地域住民の方々の協力を得ながら、社会参加を継続して行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇したい」という声を意識的に聴くことは意識しているが、そのために必要なことを考え、具体化実現できた例は少ない。 ・「趣味の会」や菜園作り、サロン、地域行事等を通して日常的に関わる事で、地域との連携が深まり、社会参加の継続につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事等に参加されているご利用者の表情からは、生き生きと生活されているように感じられません。 ・地域の住民とスタッフだけでなく、ご利用者との関わりが増えてきている。今後は、地域交流のスペースが出来る事もあるので、更に日常的に交流していきけるのではないかな。 ・個別に「なじみ」を把握し、本人の意向に沿うように計画されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の〇〇したいという声を叶えていく為に、積極的に地域に出向き、地域の方と一緒に活動していく中でその方らしい暮らしを実現していく。 ・地域の方との日常的な関わり、活動参加の継続によりご本人の暮らしを支えていく。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の課題だけではなく、地域課題を定期的に論議し、包括支援センターと共有し、地域ケア会議を開催する事で問題解決に取り組んでいく。 ・運営推進会議の意見を、ご家族に報告できる資料を作成し、2ヶ月毎に配布する事を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題について考え、地域の未来を考える「みらいまち作り委員会」への参加をし、施設として地域にどのように貢献できるかを考えている。 ・定期的に行われる地域ケア会議にはあまり参賀する事ができていない。 ・運営推進会議での意見をご家族に配布する事は出来ていないが、ご家族が会に参加して頂けることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告事項だけでなく、開催月事に会議のテーマを決めておくと、焦点化しやすく、地域の意見を現場に還元していきけるのではないかな。 ・運営推進会議の内容をご家族と共有することが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議に地域の方だけではなく、ご家族にも参加の声掛けを行い、参加できない場合でもご家族に共有する仕組みを作っていきます。 ・地域課題を事業所全体の課題として捉え、地域に根付いた事業所となるよう努めます。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回の災害訓練だけでは、実際に災害が起こった時の対応が遅れてしまうので、毎月実施する小規模会議で、あらゆる災害時の対応を会議項目に取り入れていく。 ・福祉避難所の一つの場所として、地域住民が全員わかるように、チラシの配布などを検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模会議の中では簡単な対応については確認したが、全ての項目を全ての職員が把握するには至っていない。 ・今年度より、地域の方の避難場所が施設内駐車場に変更になった事もあり、福祉避難場所である事を呼びかけることが出来るようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時には、駐車場スペースなどがあり、頼りになるので安心。 ・地域としっかり連携して訓練されているので素晴らしい。 ・災害用の備蓄の情報提供なども地域にすると良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議等では定例議題として挙げる。

--	--	--	--	--